

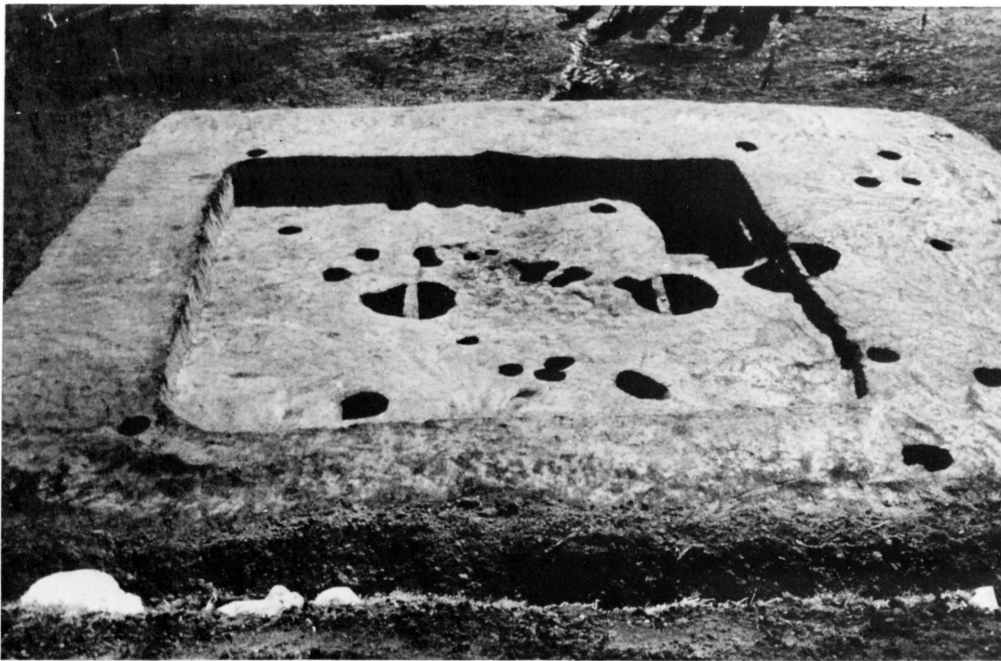
## 古 墳 時 代

弥生時代に各地に現われた豪族は、しだいにいくつかのより強い豪族に支配されるようになる。豪族たちは、その力を示すために、土を盛った大きな墳墓をつくった。この時期を「古墳時代」といいます。

鹿児島県の古墳は高塚古墳のほか、南九州独特といわれる地下式板石積石室、及び地下式横穴が分布する。

古墳の内部には、竪穴式石室や箱式石棺等があって、ここに死者を埋葬した。副葬品はよその県にくらべて少なく、鉄剣・鉄鏃・刀子が中心で、ほかに鏡・玉類・甲冑・土師器・須恵器なども見られる。

九州縦貫自動車道建設に関する調査においては、古墳そのものはなかったが、古墳が造られた頃に使われていた土器等が出土した遺跡は多く、26ヶ所もあった。また、住居址が確かめられた所もあった。



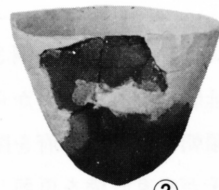
東原遺跡竪穴式住居址

竪穴式住居……地表から深さ約60～100cmの円形、または方形に掘り下げて床面とし、その上を被うように屋根を葺きおろすものである。住居の内・外に柱穴の痕跡が認められる場合が多い。



甕形土器

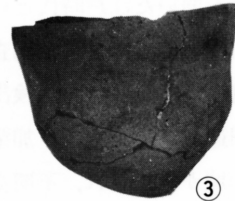
①



②



④



③

小形土器

- ①～④ 東原遺跡住居址内出土
- ⑤ 桑ノ丸遺跡
- ⑥ 入道遺跡



⑤ 壺形土器



⑥ 甕

甕形土器……主に煮沸用に使われるもので、ススが付いているものもある。

小形土器……小形のもので、鉢形・柑形・コップ形等のものがある。

壺形土器……貯蔵用に使われたものとされている。

甕……液体状のものを入れたものとされている。中央の穴に竹のような管状のものをさし込み注ぎ口としたものである。祭祀用と考えられている。

## 歴 史 時 代

元明天皇が奈良に都を定めた和銅3年（710）からを奈良時代、桓武天皇が京都に都を移した延暦13年（794）から約400年間を平安時代という。

鎌倉時代は源頼朝が鎌倉に幕府を開いた建久3年（1192）から元弘3年（1333）その後は足利尊氏が武家政権を再興した室町時代となる。室町時代の次は徳川家康が江戸に幕府を開いた江戸時代という。

九州縦貫自動車道建設に関する調査においては、奈良時代末から平安時代にかけての遺構・遺物が小瀬戸遺跡で検出された。

また、中尾田遺跡や山崎遺跡、加栗山遺跡では、シラス台地の急峻な地形を利用した中世の山城が検出され、不明な点の多い中世山城の解明に役立った。



縦横に走るものが排水溝と考えられる溝状遺構。円形の穴は掘立柱の建物跡である。



井戸 I



井戸枠 I



井戸枠 II



木製容器

(いずれも小瀬戸遺跡)

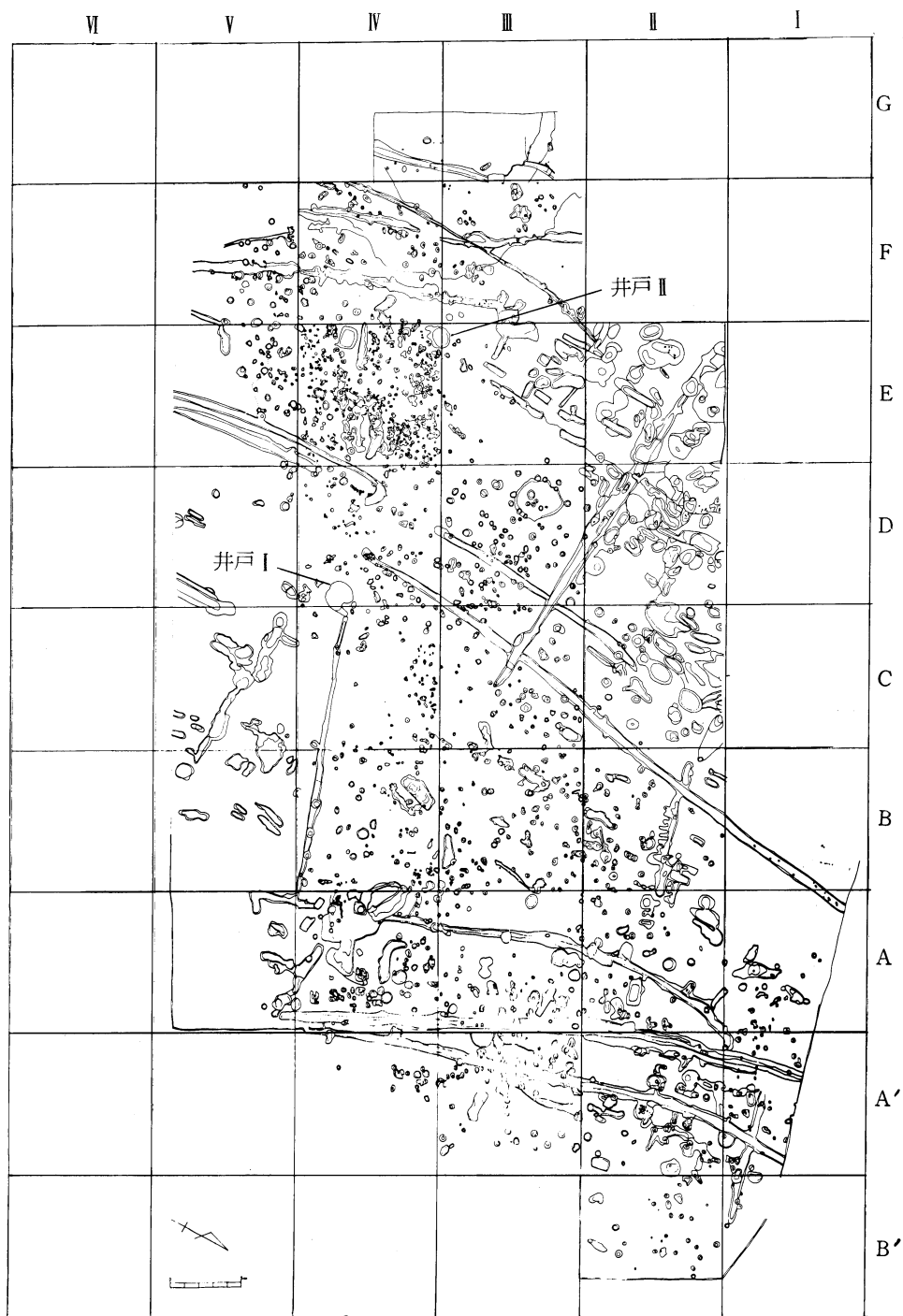


中世山城(柵列・堀)

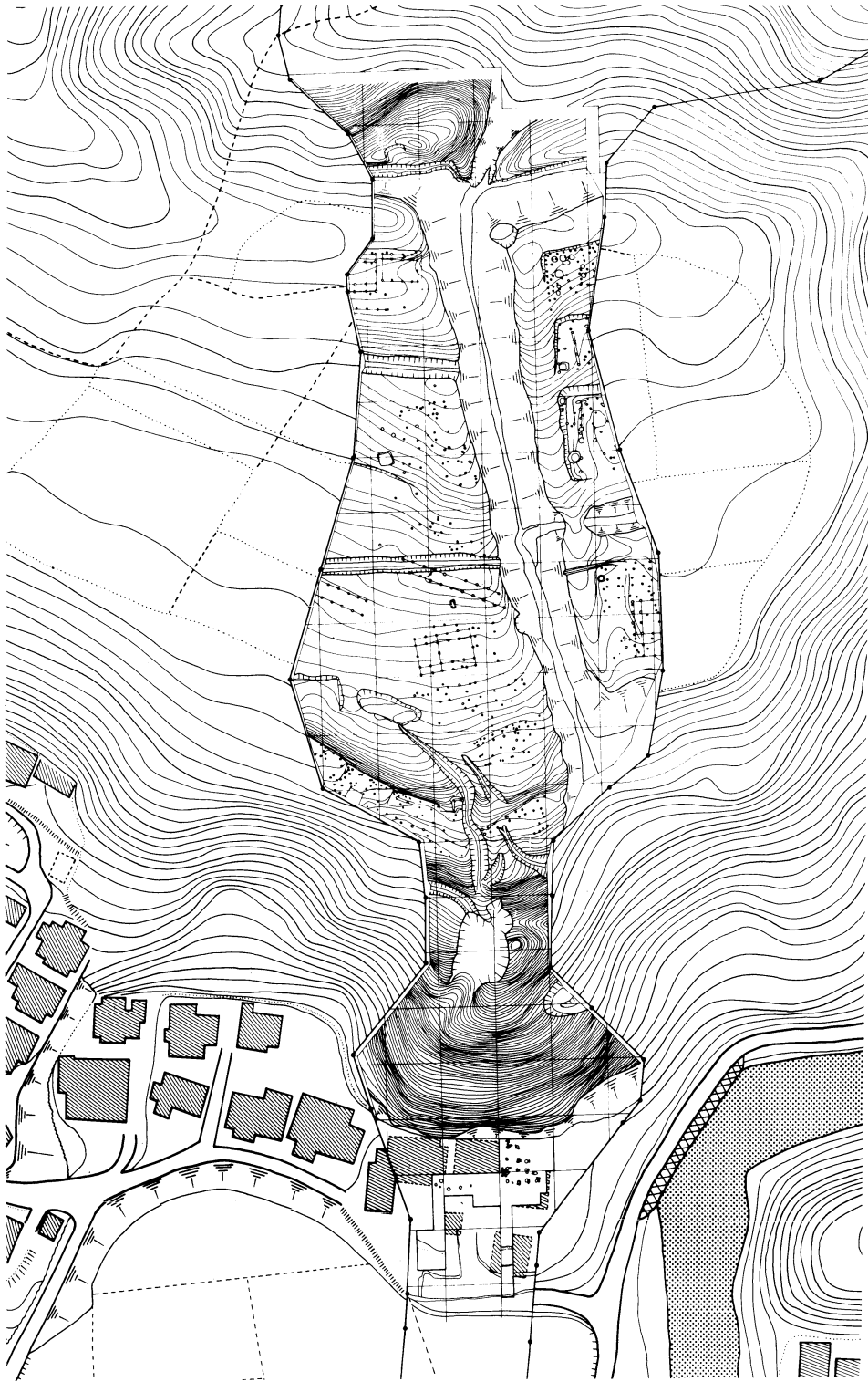
加栗山遺跡



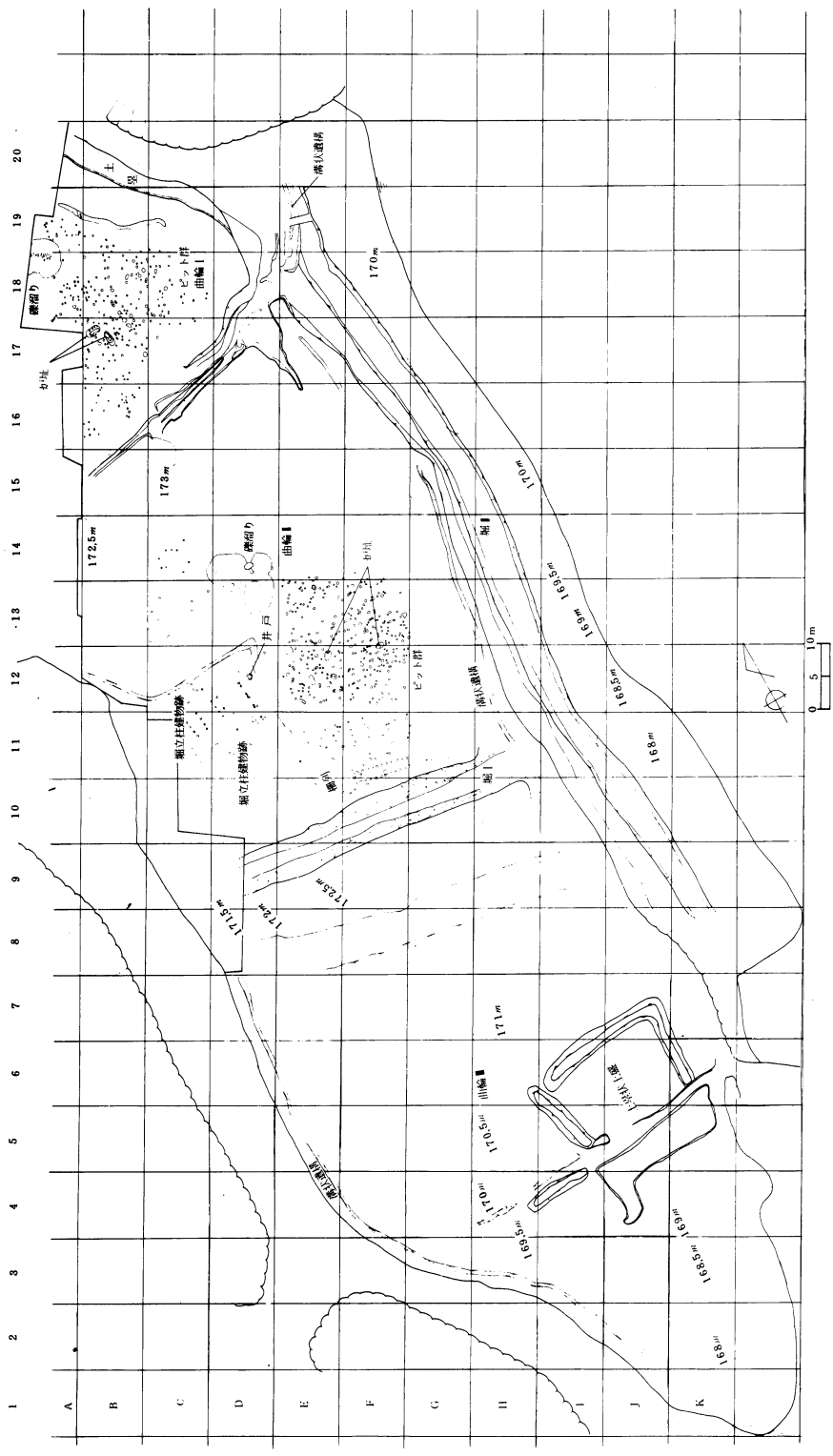
山崎B遺跡(堀)



小 瀬 戸 遺 跡



中尾田遺跡



加栗山遺跡





建物跡（2間×3間の掘立柱）



炉跡（加栗山遺跡）



柵列（中尾田遺跡）

建物跡……柱の土台となる礎石を置くこともなく、地面に穴を掘り、柱を直接埋め込む「掘立柱」の建物である。瓦が出土していないことから、カヤやワラぶきの屋根が考えられる。



1

甕



2

壺



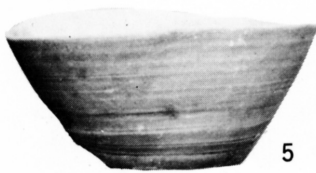
3

碗



4

碗



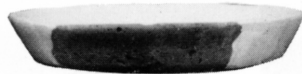
5

坏



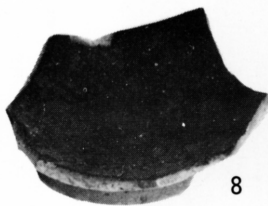
6

坏



7

皿



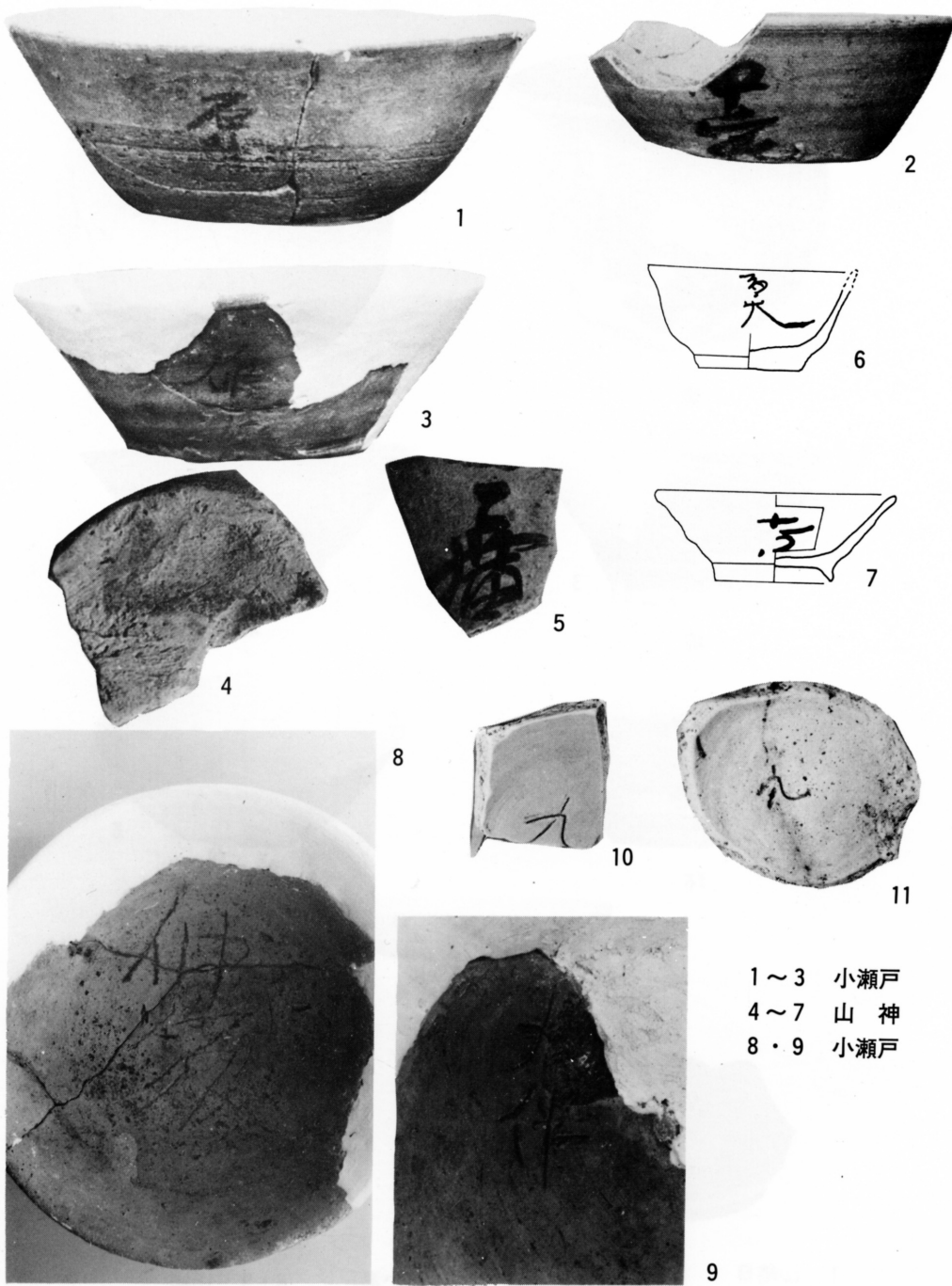
8



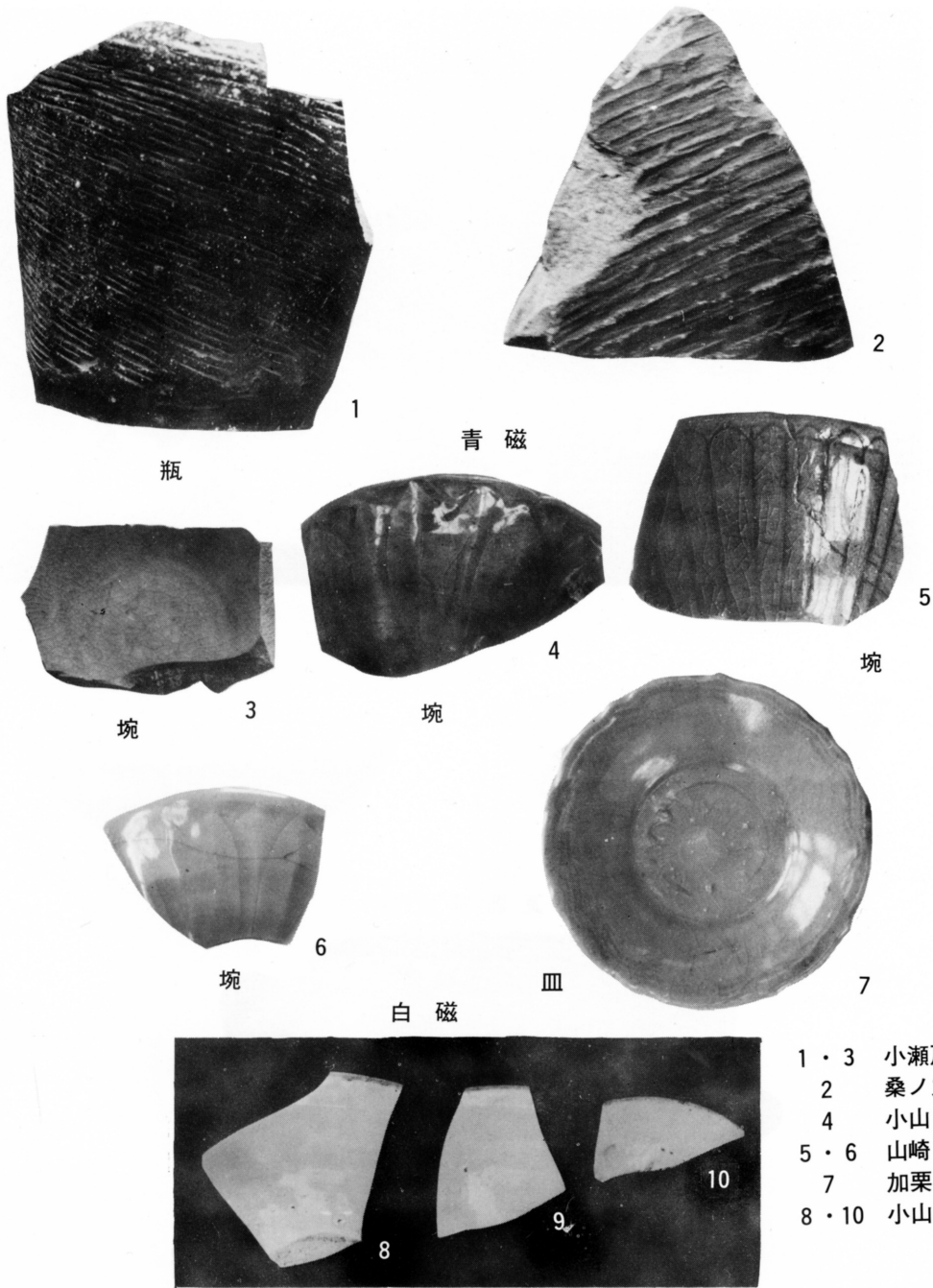
9

1 山崎B 2・6 石峰 3・5・6 小瀬戸 8・9 山崎

土師器……茶褐色の素焼きの土器で、甕・坏・壺・皿などがあり、文様は見られない。古墳時代から、奈良・平安時代、室町時代まで作られた土器。



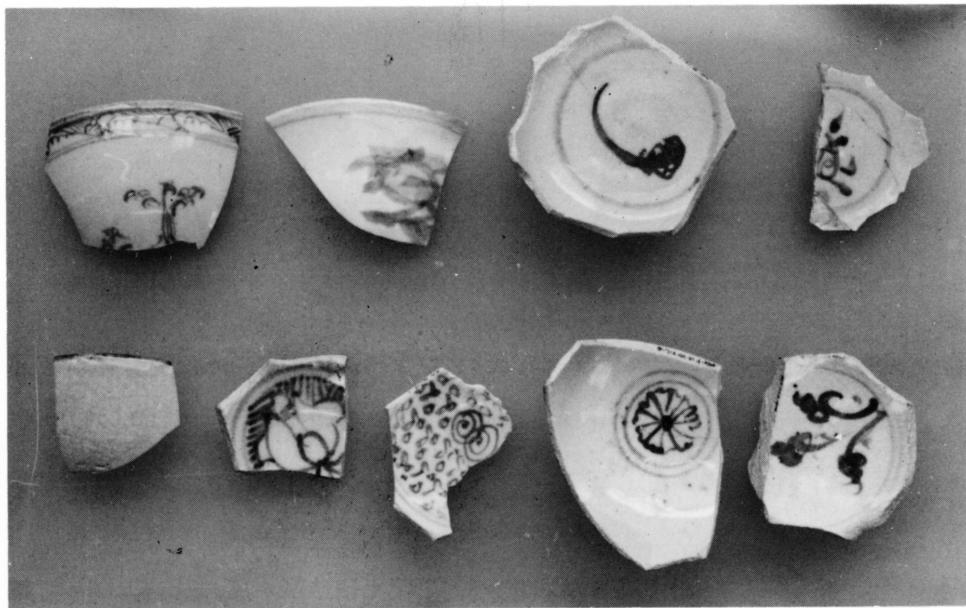
墨書・刻書土器……土師器などに墨やヘラで、所有者名・土器を使用する場所名などを書いた土器。



- 1・3 小瀬戸
- 2 桑ノ丸
- 4 小山
- 5・6 山崎B
- 7 加栗山
- 8・10 小山

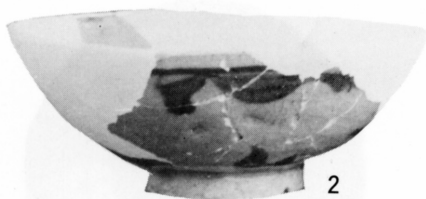
須恵器……古墳時代以降、灰色ないし灰黒色に焼かれた硬質の土器。器面には叩き目のあとがある。壺・甕・坏・埴などがある。約1000℃の還元焰で焼かれた。

青磁……青色を呈する磁器。器面には蓮弁文や花文などを描く。中国産が主である。

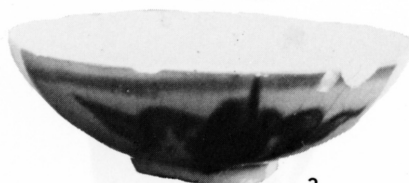


染付

1



2



3

瓦器質土器



4

羽釜

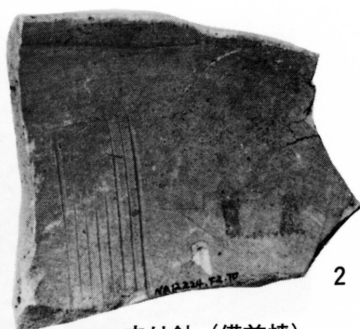
染付……白色の素地に呉須で下絵付をして、上釉をかけて焼いた磁器。1600年代日本で焼かれる以前は、おもに中国から輸入された。

瓦器質土器……灰黒色にいぶし焼きされた軟質の土器。



甕 (常滑焼)

1



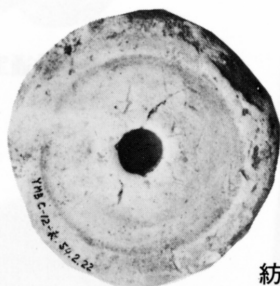
すり鉢 (備前焼)

2



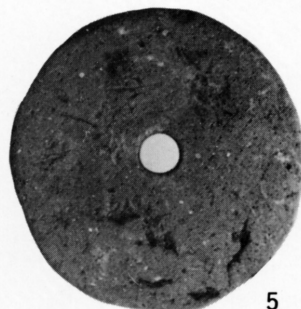
石鍋 (滑石製)

3



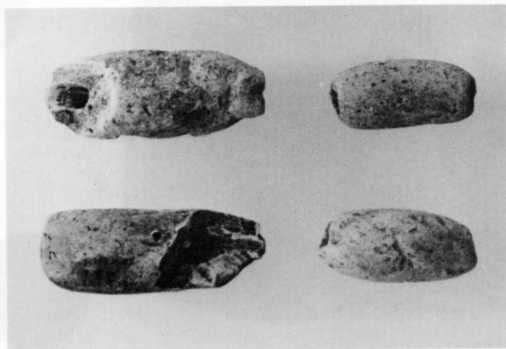
紡錘車

4



5

石  
錘

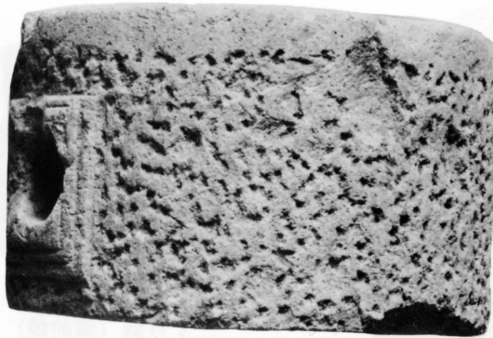


6

1~3 中尾田  
4 山崎B  
5・6 小瀬戸

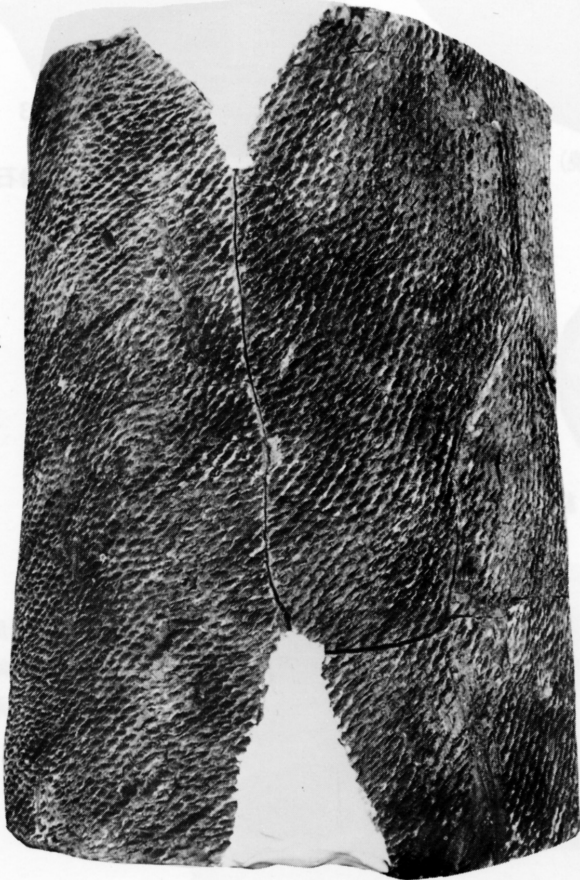
紡錘車……糸をつむぐとき、回転によって糸によりをかけるため、糸巻棒にさしてその回転を助ける円盤形の小器具。土師器の底を再利用したものもある。

土錘……網のおもりに用いたもので、棒状の土製品の中央に穴をあけてある。



石 白

1



平  
瓦

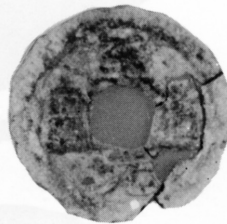
2



古 銭

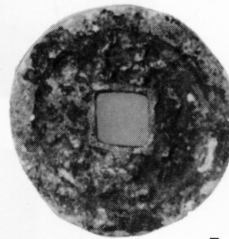
3

「崇寧通寶」



4

「至元通寶」



5

「元豐通寶」



6



7

1 加栗山 2 小瀬戸 3 小山 4・5・7 中尾田

石白……凝灰岩質のもので、茶臼に使用されたものであろう。

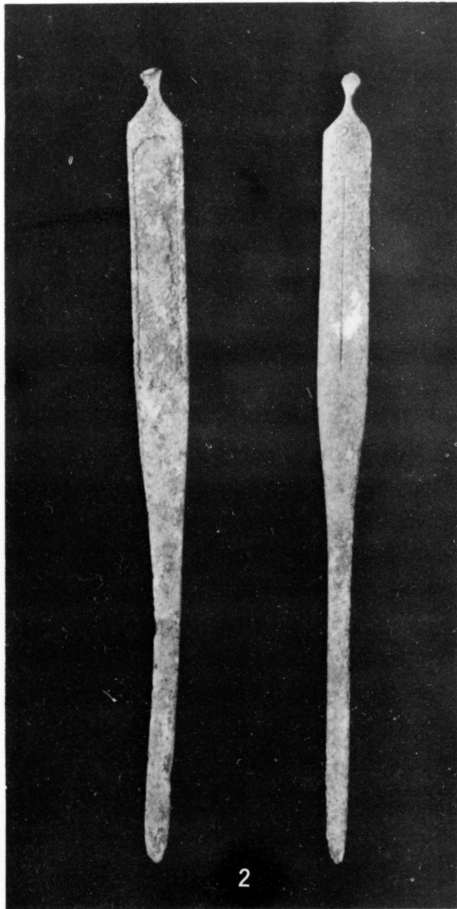
瓦……屋根にふくもので、平瓦・丸瓦・軒丸瓦などがあり、面には撚糸などの叩きがみられる。



こうがい

土馬

1



2



金銅製品

3



台座

4

- 1 小瀬戸
- 2 加栗山
- 3 中尾田
- 4 小山

土馬……粘土で焼き固めたもので、水霊信仰に使用されたとされている。

笄……髪をまげるとき止めるかんざしで、装飾具として用いられた。

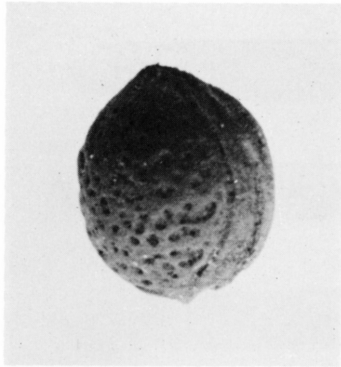
台座……無縫塔の台座である。僧の墓によく使用されていることから、出土地は寺院も推定できる。



植物遺体 一 小瀬戸遺跡井戸 I 内出土一



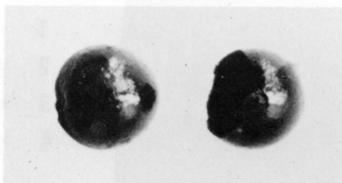
モモ



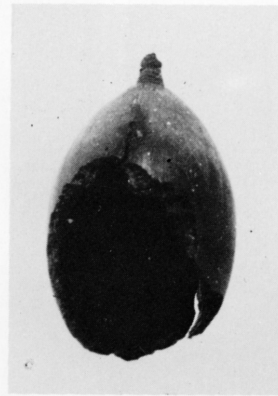
ウメ



ヒヨウタン



ヤブニッケイ



イチイガン

植物遺体……小瀬戸遺跡の井戸 I 内より出土したもので、ウメ・モモ・ヒヨウタンは当時の食生活、ヤブニッケイ、イチイガンは周辺の植性の一端をうかがい知ることができる。

# 集石遺構の科学処理による取り上げと保存

加栗山遺跡は、中世山城・縄文文化・細石器文化と複合遺跡であった。これらの貴重な資料に対して、我々は遺構等について科学的保存という面からも取り組んでみた。

東京都小金井市前原遺跡において、礫焼ピットの科学保存を行なった東京国立文化財研究所第3修復技術研究室の樋口清治室長と青木繁夫氏の指導を受けて、1号集石と2号集石の2基について科学的保存を行なった。

## 1 集石の科学的保存



取り上げる遺構の範囲を決め、EXPをPS-NY-シンナーで適量にうすめ、土に注入して固める。動く石や石のすき間には土をつめて固定しておく。

薬剤：EXP (イソシアネートポリマー)  
PS-NY-シンナー



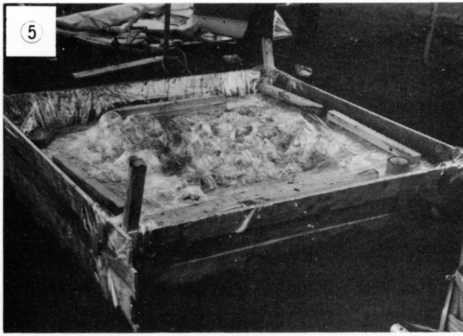
取り上げる範囲のまわりを掘り込む。レベルや方位を測定しておく。



遺構表面から適当な長さの「┌」型の針金を数ヶ所に差し込む。全体重量を軽くするため、裏側の土を除去するための目安となる。



遺構の天地を逆にする際、遺構の礫が移動しないように、表面に拓本を取る要領で画仙紙を水張りして固定する。ラップ等でさらに覆うと効果がある。



5 天地を逆にするため、遺構の周辺にわく組や、すじかいを入れて頑丈に固定する。



6 表面に発泡ウレタン樹脂を流し込み、さらに頑丈に固定する。発泡ウレタンの節約のため、ビニール袋等で風船をつくり、つめる。発泡が始まったら板等で圧力をかけ平らにする。  
薬剤：ハイブックス（主剤・硬化剤）主剤対硬化剤＝1対1



7 発泡ウレタン樹脂が固まったら、天地を逆にするためフタをし、遺構を台地と切り離しながら裏打ちをする。ショック防止のため、ウレタンフォームをフタとの間に入れたり、すじかいをしっかりとる。



8 遺構の天地を逆にした後、裏側の土を除去する。3で差し込んでいた針金が見えたら、さらに最大限にうすくして全体重量を軽くする。



9 裏土の表面にエポキシ樹脂エマルジョンを塗って固める。  
薬剤：エマルジョン（主剤・プリゾールL-601、硬化剤・プリゾールL-602）主剤対硬化剤＝3対1、適宜水でうすめる。



10 裏土の表面にポリマールをしみ込ませたグラスファイバーマットをはり、さらに固め、安定させる。  
薬剤：ポリマール（ポリエステル樹脂）触媒にパーメック（ベンゾールパーオキシド）を使う。主剤対触媒＝100対1



裏に支えの骨組をつくり、裏土と一体化させるため、ポリマールをしみ込ませたグラスファイバーマットをはりつける。



遺構の天地を元にもどし、上ぶた、発泡ウレタン、画仙紙、針金等を除去していく。



遺構面を清掃し、EXP（イソシアネートブリポリマー）をさらにしみ込ませて固める。  
薬剤：EXP、PS-NY-シンナー



動く石はエポキシ系の接着剤で固定し、ひびがはいて土が動く場合は、エポキシ樹脂エマルジョンの原液を流し込んだり、土と練ったものをつめておく。  
薬剤：エポキシ系接着剤、エポキシ樹脂エマルジョン



1号集石

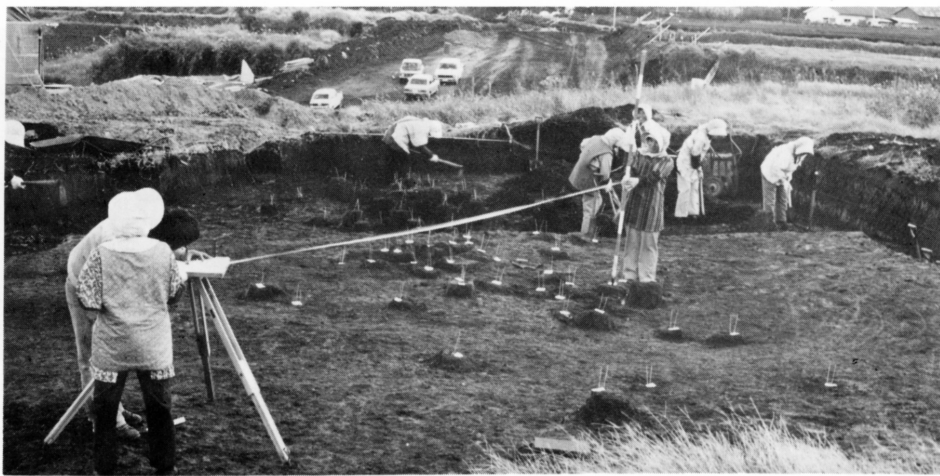
清掃を行ない、展示用の化粧板などをあてる。カビ対策用にホルマリンを4~5倍位薄めたものを塗布しておく。



2号集石



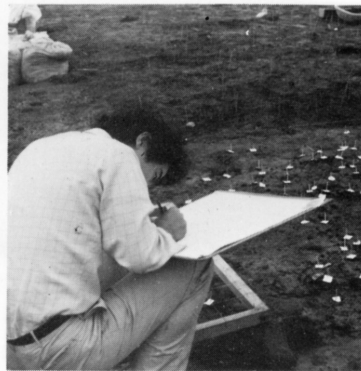
発掘風景

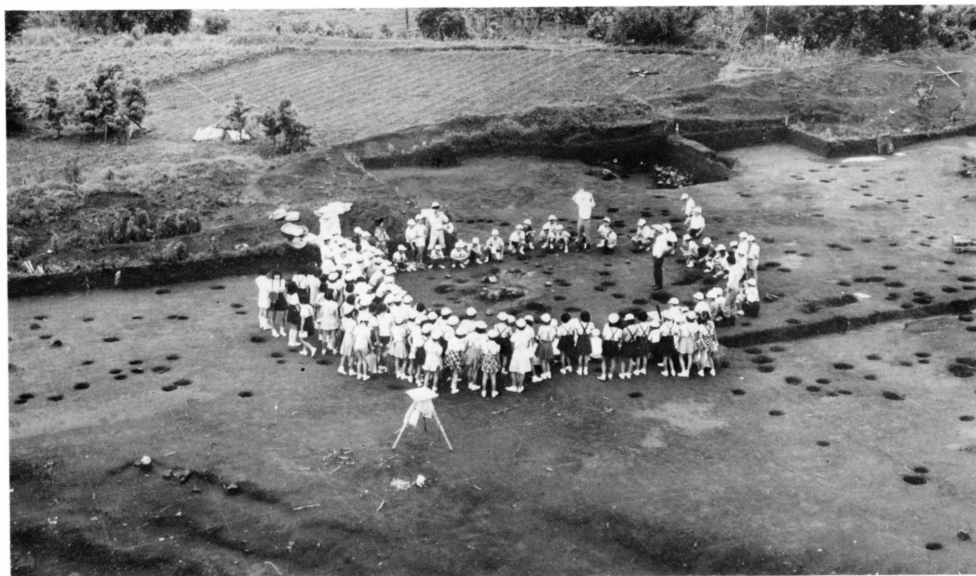


実測（平板測量で遺物の所在を測量している）



実測（出土遺物を1/10, 1/20の縮尺で）  
方眼紙に実測している。





遺跡説明会



## あ と が き

九州縦貫自動車道（鹿児島線）関係の埋蔵文化財発掘調査は昭和46年8月、始良郡始良町所在の小瀬戸遺跡に始まり、昭和53年2月、始良郡栗野町木場A遺跡の調査完了、昭和56年3月までの報告書作成・整理作業ですべてが終了した。遺跡数38箇所、発掘面積206,300㎡、10余年が費やされた。

本書はできるだけ平易に、しかも各遺跡のわくをはずし、遺物を各時代に再編することで、とかく固くなりがちな本報告書にかわって、埋蔵文化財の理解に役立てばと編集したものです。いろいろな機会にご利用くださればありがたいです。

この間、日本道路公団をはじめ、関係各市町村のご協力、遺跡・遺物・保存科学等についてご指導下さった諸先生方、盛夏・厳寒にもいとわず発掘作業に従事して下さいました作業員の方々、出土品の整理に神経をすりへらしてがんばって下さった収蔵庫の皆さんにお礼を申し上げます。

### 鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告 (22)

九州縦貫自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告 XIII

### 総 集 編

発行日 昭和57年3月

発 行 鹿児島県教育委員会 〒892 鹿児島市山下町14番50号

印 刷 かわち印刷有限会社 〒892 鹿児島市下竜尾町26-1